

令和 2 年 5 月 6 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03310

研究課題名(和文)ベトナム・中国二国間関係の下で揺れ動くベトナム華人に関する歴史的研究

研究課題名(英文)A historical study of the ethnic Chinese in Vietnam affected by Vietnam-China relationship

研究代表者

伊藤 正子 (ITO, MASAKO)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：20327993

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：ベトナムの華人は、中国と接した山間部に住む少数民族の一つとして分類されたり、移住経路や歴史的定住過程の違いから北部と南部でその内実が大きく異なっていたり、1970年代末の中越関係の悪化期に離散したりして、全体像をつかみにくい。本研究は、そのような多様性あふれるベトナムの華人を、北部・中部・南部の都市と農村の華人、山岳地帯の雲南系サファン人、南北に離散している客家系ガイ人、少数民族に分類されている広東系サンジュウ人、ベトナムへの同化が進んでいる明郷などに細かく分類して、全土の中国系住民をカバーし、中越関係に左右されながらも両国の狭間で奮闘しながら生きて来たかれらの歴史を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国家同士のぶつかり合いの下で、居住国と対立する国家と係累をもつ人々は、国家関係や政策に翻弄されつつ生きざるを得ない。ベトナムの華人もまたそのような存在である。本研究は、華人が、自身や祖先の故郷である中国と、現在の居住国ベトナムとの狭間でどのように生きてきたかを明らかにすることで、国民国家内の民族的少数者をめぐる政策の変遷とその妥当性、政策に対応する過程で華人の自己認識がどのように変容していくのかを地域や華人のサブグループごとに明らかにした。ヘイトスピーチなど排他的動きが加速している日本にとって、も、かれらを一方的に同化させるのではなく、共存者としていかに社会に内包していくべきか示唆となる。

研究成果の概要(英文)：There is a wide variety of the ethnic Chinese in Vietnam. Depending on the area, they are significantly different because of the differences in migration routes and historical settlement processes. Some of them became Diaspora when Vietnam was divided in 1954 and when the relationship between Vietnam and China deteriorated in 1978. Furthermore, some of them were classified as one of the ethnic minorities, who live in the mountainous region bordering China. Therefore, it is difficult to grasp the whole picture of them. In this study, I classify them into four categories, and clarify the histories of their hard lives under the influence of the two nations' (Vietnam and China) relationship. They can be categorized into the ethnic Chinese in cities and rural areas; the Xa Phan people from the Yun Nan; the Ngai people speaking Hakka language; the San Diu people who are classified as one of the ethnic minorities; the Minh Phuong people who have become assimilated into the Viet people.

研究分野：アジア史 地域研究

キーワード：華人 華僑 ベトナム 中越関係 中越戦争 明郷 ガイ サファン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ベトナム人の反中感情は、1970年代末に華僑・華人の大量出国と中越戦争により最悪だった時期に次ぐほど、ここ数年領土問題を機に悪化している。ベトナム政府にとっても中国は「仮想敵」である。そのため、中国にルーツがあり忠誠心が不明瞭である(とされる)華人の歴史を詮索することはタブーで、外国人による研究も著しく制限されている。しかし、激動の時代を生きてきた華人たちにインタビュー調査を行い、20世紀半ばから現在までの時代の証言を記録することは、歴史家として重要な作業と考える。ドイモイ開始後間もない1990年代初頭まで、外国人によるベトナム研究は、党文献や現地新聞などを用いた歴史研究に限られてきた。その中で著された先駆的業績として、古田元夫『ベトナム人共産主義者の民族政策史 - 革命のなかのエスニシティ』(1991 大月書店)がある。そこでは、ベトナム人共産主義者が、抗仏・抗米戦争中、中国の華僑政策をにらみつつ華僑・華人を国民としていかに統合しようと腐心してきたかが克明に描かれる。申請者自身は、ベトナム北部華人が発行した華字紙を資料として、中国からの文革思想と米国との抗戦という、相容れない目標の間で揺れ動くベトナム北部華僑・華人の動向を分析して学部の卒論として提出、その一部が雑誌論文として掲載された[伊藤1989「文化大革命初期におけるベトナム・中国関係 - 1966-68年の新越華報を中心に - 」『アジア・アフリカ研究』vol.30 No.3、26-42頁]。

1990年代半ばから外国人によるベトナムでの現地調査が可能になると、文化人類学的手法による華人研究が現れた。対象は、インタビューや参与観察のしやすい中部・南部華人に関するものが多く、芹沢知広「ベトナム・ホーチミン市の華人プロテスタント教会宗教ネットワーク」(2012)、三尾裕子編「Cultural encounters between people of Chinese origin and local people」(2007)など、宗教や文化に関する論考がある。また、明朝遺臣の子孫とされる明郷の現状も紹介された(土屋敦子「祖先祭祀のなかの葛藤と確執」2013など)。こうした現地調査により、華人の暮らしぶりやネットワークが具体的に明らかになった。ただし、台湾や香港を専門地域とする文化人類学者による調査のため、ベトナム国家と華人との関わりは、十分に分析されていない。ベトナムという国家を視点に入れた歴史・政治的研究は依然不十分であった。

また東南アジア諸国の華人研究でも、ベトナム華人研究は特に遅れている。筆者は1995年から2年間ハノイに留学した際、華人研究を試みたが、北部の華人数が少なく、かれらの置かれた政治的環境が厳しいため断念した。当時、タブーである華人を対象に、インタビューの手法もまじえて歴史研究の対象とすることに理解を示すベトナム人研究者はおらず、その後も研究の手がかりは見いだせずにいた。しかし最近になって、筆者のベトナム華人研究にハノイ人文社会科学大のグエン・ヴァン・チン教授が理解を示してくれた。彼はドイモイ開始後間もない1990年代前半にオランダで学位を取得した文化人類学者で、彼の世代(1956年生)では西側に長期留学し学位を得た唯一のベトナム人である。彼はベトナム人研究者たちが、華人研究が政治的な問題を生むことを嫌い取り組もうとしないことを批判し、インタビューを多用し中越両言語の文献を渉猟する筆者の研究案を積極的に評価してくれた。以上の経緯から、チン教授を加えたうえで、筆者の従来の着想である本研究を実行に移すべき段階に至ったと判断した。

2. 研究の目的

本研究は、ベトナム在住の華僑・華人に対するベトナム国家の政策と華人側の反応がどう変遷してきたかを、20世紀半ばから現在までの通史として、全土を対象に明らかにするものである。ベトナム在住華人の通時的研究は、中越関係の緊張状態を反映してタブー化し、ベトナム現代史研究の空白部分であった。また地域的には、北部華人の研究は文献資料にもとづいた歴史研究に限られ、中部・南部の研究は、文化人類学者による文化や宗教研究に限られていた。そのため本研究では、南北の地域の違いにも目配りし、ベトナムの長期に渡る国家形成過程を通じて生じた北部・中部・南部の違いが生み出した華人内部の多様性も考慮する。居住国であるベトナムとしばしば対立する中国という国家に係累をもつ華人が、国家関係や政策に翻弄されつつ、ベトナムの20世紀の過酷な歴史をどのように生き抜いて来たのかを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究の特色は「ベトナム現代史研究の空白部分となっている華人をめぐる諸相を明らかにする」という目的に向け、公式文献や華字紙を資料とする文献研究と、聞き取り調査を行いオーラルヒストリーの手法を用いた研究を並行して行う点にある。政治的理由からベトナム国内での研究成果公表は現時点ではほぼ不可能であるが、それ故、第三者的立場にある日本人研究者が、生の華人の証言を記録することは、歴史から学ぶため後世必ず役立つ重要な作業である。

4. 研究成果

A 華人

華人はベトナム公定54民族の1つである。2009年の統計では82万人強、民族別人口で8位である(2019年人口調査による民族別人口は未公表)。ここには東南アジア各国でサブグループと分類される福建人、広東人、潮州人、海南人、客家が含まれ、主に都市や町に居住し商売や漢方薬に関わる仕事に従事してきた人々が多い。華人には現在60-70歳の世代が移住後3世代目にあたる人々が多いことがわかった。2世代目ももちろんいるが、6世代目より古い一族で

華人に分類されている人にほとんど出会わなかった。つまり、それより古い人たちは同化が進み、後に述べる明郷となり、個人のアイデンティティや民族分類上でもベト（キン）人となっている。ベトナムの民族分類政策は、国民を民族ごとに分類し、経済面・文化面でそれぞれ適切な政策を施すことを目指したが、中国との関係が悪化すると、華人は信用できないという疑念から排除の対象となった。現在でもこの分類が表面上みえにくい差別を招き、華人の生きにくさを生んでいる。そうしたなか、中部・南部では民族籍の華人からベト（キン）への変更が増加し同化が進行している。北部では儒教的思考から行政側も華人側も父親の民族籍を継ぐことを是とする人々が多く、民族分類政策が同化を阻む現状もある。

クアンニン省クアンラン島の華人

クアンラン島は2018年、クアンニン省の経済特区の一部として指定を受け中国への99年間の租借地候補となった場所である。ベトナム全土から反対でこの計画は頓挫しているが、中国と接するクアンニン省に属し、中国からの移民が多い地域である。現在、中国人や西洋人が多く訪れる観光地となっており、海産物の取引も盛んである。華人は3-4世代前に移住した客家出身者が多かったが言葉はもともと広東語を話し、農業や商売を営んでいた。北部が共産党統治下に入ってから、キン人と同様に合作社に組織され、ベトナム戦争中は「海のホーチミンルート」で活躍し、南に物資を運ぶ仕事に動員された人たちもいる。党员や軍人もいたが、1970年代末の中越関係悪化の際に、中国に追い返された。現在残っている人々は同化が進み華人の痕跡は墓標で確認できるのみである。

ハノイの華人

ハノイでは旧市街の元華人街を中心にインタビューを実施し、文献からは読み取れない1970年代末の困難な時期についても、ある程度明らかにした。ハノイの華人は、3世代目が現在ほぼ60歳代となっている。70年代末まではキン人とほぼ同様の扱いを受け、子供たちは華僑学校に通い、大人たちは一部公務員もいるほか、商売に精を出す人々が多かった。しかし1978年には、かなり徹底して中国に追い出されている。一部の例外を除き、ベトナム人男性と結婚していた華人女性のみが残留できた。インタビューからは、政治都市ハノイの厳格さと、北部から華人人口の大部分が出国したという通説を確認できた。さらに78年以前の教育状況や現在は政府に接収されている会館の活動状況などの歴史を明らかにできた。ハノイに残った華人は未調査であり、貴重な資料を収集できた。成果は論文にまとめる予定である。

フエの華人

フエの華人街は観光客で賑わうホイアンと同様、関帝廟、天后宮、福建会館、広東会館、海南会館などの施設が揃っているが観光開発されていない。華人街からは、ベトナム戦争終結時の1975年に約半数が国外に脱出、1978年中越関係悪化時に残りの半数が脱出した。1968年に米軍の攻撃で福建会館などを含む華人街が焼失している。観光開発の意図は行政側に多少あるが、華人たちは拒否している。それほど多くなかった華人は、現在の50-60歳代で多くがベトナム人妻と結婚しており、華語ができない人が増え同化が進んでいる。

ダナンの華人

ダナンには2013年によれば華人家庭が約500世帯ある。1933年設立のダナン五帮会館は華文センターを運営している。1975年以前は五帮会館の隣に華語学校（樹人学校）があり午前は台湾式の華語、午後はベトナム語を教えていた。75年に接収され公立のチャン・フン・ダオ基礎学校になっている。現在華文センターで学ぶのは、商売で華語が必要なベトナム人ばかりで、土日のみ無料で華人の子供たちに教えている。ダナンへの華僑の入植はホイアンより遅く、ホイアンよりは華人社会が小規模。

ホイアンの華人

ホイアンは一大観光地である。華人は現在50-60歳代で4世代目が多い。祖先は、清朝の政治変動を避けて来た、徴兵忌避で来た、新しくは日本軍が中国大陆侵略時に来た、などさまざまである。1975年以前は大きな華語学校（礼義学校）があり、華語とベトナム語を教育していた。現在でも華語を維持している家庭もあるが、全般的には同化は進行しており、会館内でもベトナム語での会話が増えている。多くの華人が商売に従事し、会館に観光収入はあるが、国家が観光振興のもと完全に管理しており、華人自身の自主的活動はあまり見られない。

ニントゥアン省の華人

ニントゥアン市中心部の市場の隣に1831年設立の国指定史跡の壮麗な海南会館がある。広東人、海南人、潮州人がともに建てたが（福建人はほとんどいない）、いまは別々の会館をもつ。ニントゥアン省の華人は2009年の統計では121家族、700人ほどいる。しかし多くは既にベトナム人と混血、1975年以前に教育を受けた年代までは華語或いはそれぞれの地方語を話せる人がまだ存在するが、それ以降の世代では非常に少ない。1975年に出国した人たちも大変多い。

ホーチミン市の華人

ホーチミン市には有名なチョロンがあり周辺には華人が多く住むほか、中心部1区にも知ら

れざる集住地域がある。ホーチミン市の華人は人数が多いだけに非常に多様である。多くが商売に従事しているが、ほとんどが海外に脱出した家族・親戚を持つため、しばしば海外に出かけ、帰国する人と交流したりして、ネットワークを商売に生かしている。華語学校は会館に併設されていたが、1975年以降閉鎖、最近になって開講しているが、生徒の多くはベトナム人である。親が意識的に子供に華語を習わせる例は多くなく、大学生になって華人の子供が華語を習い始める例は多い。ドイモイが開始25年ほどで、海外との交流は復活したが、一方若者のベトナム化も進んでいる。またホーチミン市の会館は、中国本土との交流も盛んで、多くの援助を受けて、建物の修復などもできている。会館の活動には若い世代も参加して盛んである。福建会館では福建語クラスを開講するなど、出身地域の言語を教えたり、芸能を伝えたりするクラスのあるところもある。漢方薬を扱ったり、鍼灸治療を実施したりする華人も依然として多いが、ベトナム人がこの分野に侵入してきている例も数多く目にした。国家が医師国家試験や漢方薬の流通ルートで、華人よりもベトナム人を優遇する制度を作っていることが背景にある。「金持ちや優秀な人たちは海外に逃げた」という華人自身の証言も多かった。

ライチョウ省のサファン人

サファン人は、華人のサブグループとして民族分類表には載っているものの、先行研究がなく、どういう人たちなのか全く不明であったが、かれらは雲南省から100年以上前に移住してきた人々であることが判明した。現在も母語の雲南語を維持している。1978年までは、子供たちはライチャウの町にあった華語学校へライチャウ各地からやってきて下宿して通っていた。一方、ベトナム民主共和国で軍人だった人たちもおり、現在も、モン族優勢の西北地方高地山間部で、サファン人は皆モン語ができる。村における地位は低いものの、勉学に熱心な家庭が多いため、学歴は比較的高く都会へ出て大学へ行っている若者もいる。歴史的には、これまで中国の文革に呼応して中国に渡った人たちがいるほか、他地域の中国系集団と同様、1970年代末の中越関係悪化の影響を受けて中国に戻った人も多い。最近では70年代末に中国に渡った親戚とのネットワークを利用した雲南への出稼ぎも激増している。かれらは、サファンは少数民族の一つと主張しているが、国家はサファンを華人として登録させようとしている。そのため、世代によって身分証の記載が、サファンと華人に分かれるという現象が起きている。

B. 1979年に突如、華人から分離されて一少数民族として認定されたガイ(Ngai)人

ガイ人とは以下のような人々である。中国南部広西の欽州周辺の農村に居住していたガイと自称する人々が、ベトナムのハイニン（現クアンニン）省モンカイに国境を越えて移住し、そこにとどまる人々もいたが、さらに土地を求めてバクザン、タイグエンなどの北部各省の農村に広がっていった。そのうちハイニン省に住んでいた人々は、フランスがベトナムに対抗して1947年に設置した「ヌン自治国」の住民とされたが、1954年南北に分断された時、南部へと移住した。かれらのうち、ホーチミン市に定住した人々もいるが、その後ドンナイ省やピントゥアン省などに再移住した人々もいる。ジエム政権の軍隊内で強力な部隊として活躍する人々も出たが、1975年にベトナム戦争が終わると今度は海外へ脱出する人々が多く出た。一方、ベトナムに協力して1954年以降もバクザン省やタイグエン省など北部農村地域に残っていたガイ人の中にも、1970年代末の中越関係の悪化時に、公職を追放されるなどの圧迫を受け、多くの人々が中国に渡った。この過程で経験した歴史も大きく異なり、同一の共通したアイデンティティをもつ人々とは言い難い存在となっているが、観音信仰を維持している点はほぼ共通している。筆者はこのうち、現在ガイ人はいないものの「ヌン自治国」の地元であったクアンニン省、北部農村のタイグエン省とバクザン省、南部の移住地であるピントゥアン省、ドンナイ省、ホーチミン市で現地調査を行った。ガイとは客家語の「私」の意味で、ベトナムのガイ人も客家系の集団である。しかしベトナムでは、都市に多くいる客家と同じとみなさず、「ガイ」という範疇をわざわざつくり、1979年の民族分類決定の際に少数民族として認定し、華人から引き離そうとした。しかし党中央の意図は地方の末端には伝わらず、多くが華人のまま登録され、末端では華人と同様の圧迫を受けて、多くの人々がベトナムを脱出した。このような経過を経て、ガイ人は中国南部、ベトナム北部、南部、そして幾つかの西側諸国に散らばって居住するディアスポラの民となった。ガイという民族範疇は生かされず、華人としてほとんどの人が登録されたことで、やはり、排除政策の犠牲になったままである。

C. 華人とは別の一少数民族として分類されたサンジュウ人

サンジュウ人は1950年代末から、民族分類が確定した1979年、そして現在まで一貫して完全な「少数民族」として認知されている。しかし調査の結果、サンジュウ人は農村在住の広東人ということがわかった。ベトナムの研究によれば、広西壮族自治区の南東の十万大山の麓に住んでいた人々がベトナムに移住し、北部の低山間部や海沿い地域に拡がり、広東土語を話すとされている。ベトナムでは現在、多くの少数民族の若い世代は民族語を話せなくなっているが、サンジュウ人は若者も子供たちも、集住地域では依然としてサンジュウ語を維持し、ベトナム

語とのバイリンガルである。また、都市の広東人とは異なり、海外にネットワークを持たない。これは、陸路でベトナム入りし一貫して農業に従事してきた歴史的経緯によると考えられる。ベトナムの少数民族と認定されていたサンジュウ人には、中越関係悪化の影響はなく、ベトナム政府から中国との関係を疑われることもなかった。このことは、海外に離散するディアスポラの悲劇をもたらすことなく、かれらが平和的にベトナム国内で暮らし続けることを可能にした点で画期的だった。かれらの強いベトナム人意識は、そのような歴史を背景にもつ。

D. 明郷（ミンフオン）

明郷とは、明清交代期に清の支配を嫌いベトナムに逃れた人々を指すとされ、ベトナム中部・南部での呼称である。実際は必ずしも清朝初期ではなく 18 世紀にベトナムにやってきた例も多い。現在のベトナムの民族分類には登場せず、完全にベトである。中国系言語は話せず、「祖先が中国から来た」という記憶を一族で共有する以外に、ベトと異なる部分はほとんどない。フエやハノイには阮朝の官僚を輩出した有名な一族も多い。中部・南部の各都市には明郷会館が存在する（した）ところが多いが、華人の会館と異なり中国や海外ネットワークを持たないため、修理や維持がままならず、またベトナム人意識が強いため、会館活動に興味をもつ若い世代がおらず、メコンデルタの地方都市では消滅しつつある。北部には「明郷」という呼称はないが、「明郷」と同様の一族が存在するので、ここでは便宜的に「 」を付す。

ハノイの「明郷」

西湖のほとりや旧市街に「明郷」が居住している。西湖のほとりに住むリー(Lý)家は有名である。初代は福建から 1644 年にベトナムに移住したとされ現在は 14 代目である。阮朝の官僚として活躍したリー・ヴァン・フックはリー家出身である。旧市街には、現在は多数の支派に分かれているが、漢方薬屋を営み、官僚を輩出してきたフォー家（現在 13 代目）などもある。

フンイエン省フォーヒエンの「明郷」

フォーヒエンは 17 世紀から首都ハノイと並んで港町として大いに栄えた。華人は当時ハノイに入ることを許されなかつたため、フォーヒエンに集住し貿易で活躍した。現在でも東都会館や天后宮などの施設がある。福建人が多かったと思われるが、現在は多くはキン人に同化している。筆者が訪ねたオン家は子供の世代で移住後 9 代目だった。3 代目までは華僑だったが、4 代目の時にベトナム人として登記したと言う。漢方薬の医師と現在は西洋薬の医師もしているとのことだった。北部では「明郷」の用語は無いが、まさに明郷の一族である。

フエの明郷

フエの明郷の歴史は古く、明朝の時代に既に黎朝から土地を与えられて、大明舗と呼ばれるフオン河の西南地域（Thành Hà と Minh Hương、現在は Minh Thanh と呼ばれている）に住んでいた。もと福建人が多い。現在でも付近には、阮朝に高官として仕えていた明郷の子孫が残っている。ゾンホとしては、以下の一族がある。Trần Tiễn 家、Cung 家、Lâm 家、Cam 家、Nguy 家、Nhân 家、Trịnh 家、Luu 家。既に地元にはいないが、Trịnh 家は有名な作曲家、チン・コン・ソンの一族である。またこれらの一族は阮朝の官僚を多数輩出している。一方、これらの一族の多くが 1975 年に海外に脱出している。確認しておきたいのは、中越関係が悪化した 1978 年ではなく、南ベトナムがベトナム戦争で敗北した 1975 年に脱出していることである。つまり、フエの明郷は華人として弾圧を受けたのではなく、裕福な一族が多かつたため、多数派キン（ベト）人と同様、社会主義政権の支配を嫌って逃亡したのである。

ホーチミン市の明郷

チョロンには他の華人会館と並んで、嘉盛明郷亭があるが、他の会館のように中国からの援助がないため、建物の修復ができず、会館も短時間しか開いておらず、成員に若者がおらず、衰退しつつある。この要因は、明郷が既にベト人に同化し、記憶の中で祖先が中国から来たという以外、中国との関わりを持たないからと考えられる。会館でなく「亭」を使用しているのも、自分たちが華人ではなく、ベトナム人であるという自意識の現れである。かれらは数世代前からベトナム語しか話せないため、中国本土の中国人と交流できず、故郷も詳しくは記憶しておらず、移住から相当の時間がたっているため、故郷の親戚との交流もない。特に若い世代はベトナム人としての意識しかないため、会館の活動に一切関心を示さない。

まとめ

中越関係の変遷により、ベトナム華人は微妙な立場や困難な立場に置かれてきた。特に、社会主義諸国特有の民族平等を目指す分類政策が、華人を排除することになったのは皮肉である。しかし、運よく「華人」とされなかつた者（サンジュウ人）や、歴史的に同化が進んで土着化した華人（明郷）は、ベトナム社会に統合されている。歴史的に少数民族に手厚い政策をとってきたベトナムだが、華人に関してはベトナムの民族政策は、「共存」「統合」を目指すものにはなっていない。一方で「少数民族」との共存を目指す社会にはなっており、同化した人々に対しては寛容で、出自を云々する社会でもないことが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 SHIMOJO HISASHI	4. 巻 -
2. 論文標題 Local Politics in the Migration between Vietnam and Cambodia: Mobility in a Multi-Ethnic Society in the Mekong Delta since 1975.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Nguyen Van Chinh	4. 巻 -
2. 論文標題 Living on the edge: The Ethnic Chinese in the Northeast Borderlands	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Tap chi dan toc hoc (Anthropology review)	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鄧応文	4. 巻 13
2. 論文標題 外交	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 越南国情報告（2019）	6. 最初と最後の頁 101-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nguyen Van Chinh	4. 巻 -
2. 論文標題 Nghien cuu vung bien gioi: van de, ly thuyet va phuong phap	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Mot so van de ve dan toc, toc nguoi o vung bien gioi va lien xuyen bien gioi nuoc ta hien nay	6. 最初と最後の頁 27-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄧応文	4. 巻 12
2. 論文標題 外交	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 越南国情報告(2018)	6. 最初と最後の頁 90-109
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小田なら	4. 巻 無し
2. 論文標題 ベトナム「伝統医学」の形成過程 - 医療の「制度化」と実践のあいだ -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学位申請論文	6. 最初と最後の頁 1-214
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下條尚志	4. 巻 95
2. 論文標題 ベトナム カンボジア国境の越境移動をめぐるローカルな政治 冷戦終結後メコンデルタのクメール人越境者とベトナム国家	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 151-180
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/92461/1/jaas095004_ful.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正子	4. 巻 2
2. 論文標題 序	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6. 最初と最後の頁 169-172
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/dl/publications/no_1702/AA1702-00_1to.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正子	4. 巻 2
2. 論文標題 ベトナムの「華人」政策と北部農村に住むガイの現代史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6. 最初と最後の頁 258-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/dl/publications/no_1702/AA1702-04_Ito.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nguyen Van Chinh	4. 巻 2
2. 論文標題 Memories, Migration and the Ambiguity of Ethnic Identity: The Cases of Ngai, Nung and Khach in Vietnam	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6. 最初と最後の頁 207-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/dl/publications/no_1702/AA1702-02_Nguyen.pdf	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nguyen Van Chinh	4. 巻 -
2. 論文標題 China's Economic Integration and New Chinese Immigrants in the Mekong Region	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Sociology of Chinese Capitalism in Southeast Asia: Challenges and Prospects	6. 最初と最後の頁 195-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-13-0065-3_9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鄧応文	4. 巻 11
2. 論文標題 外交	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 越南国情報告(2017)	6. 最初と最後の頁 36-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正子	4. 巻 63-3
2. 論文標題 韓国軍によるベトナム人戦時虐殺問題 - 戦争の記憶と和解 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 12-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://www.jstage.jst.go.jp/article/asianstudies/63/3/63_12/_pdf/-char/ja	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nguyen Van Chinh	4. 巻 -
2. 論文標題 Nguoi Ngai o Viet Nam, cac nhom dia phuong va ban sac toc nguoi	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Nhung van de co ban va cap bach ve dan toc, toc nguoi o nuoc ta hien nay	6. 最初と最後の頁 177-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 正子	4. 巻 63
2. 論文標題 韓国軍によるベトナム人戦時虐殺問題 戦争の記憶と和解	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 12-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.11479/asianstudies.63.3_12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正子	4. 巻 -
2. 論文標題 「わたしたちは華人ではない」 - ベトナムの華僑政策と北部農村に住むガイ人の現代史 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア歴史研究報告書 (2016年度大学研究助成)	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://www.jfe-21st-cf.or.jp/furtherance/pdf_hokoku/2016/a01.pdf	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤正子	4. 巻 -
2. 論文標題 日本国内メディアでの情報発信	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 原発から再生可能エネルギーへの転換 持続可能社会実現に向けたベトナムと日本の国際協力	6. 最初と最後の頁 59-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 小田なら
2. 発表標題 ベトナムの自画像 東アジアと東南アジアの狭間の薬と医学
3. 学会等名 Korea Foundation One-Day Forum 越境・混淆・共生 東アジアにおける文化生成、於一橋大学 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小田なら
2. 発表標題 Vietnamese Traditional Medicine in the South: Diversity and Integration
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS), Leiden University (Netherlands) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小田なら
2. 発表標題 現地化する医療 ベトナム伝統医療における『華人』
3. 学会等名 日本ベトナム研究者会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小田なら
2. 発表標題 現地化する医療 ベトナム伝統医療における『華人』
3. 学会等名 東南アジア学会関西例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下條尚志
2. 発表標題 混淆と移動から考えるメコンデルタの『華人』
3. 学会等名 日本ベトナム研究者会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下條尚志
2. 発表標題 混淆と移動から考えるメコンデルタの『華人』
3. 学会等名 東南アジア学会関西例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIMOJO HISASHI
2. 発表標題 Belonging and Religion in the Multi-Ethnic Society of Vietnam 's Mekong Delta Cross-Border Migration by Khmer Theravada Buddhist Monks
3. 学会等名 the workshop, " Ethnicity, Religion, Conflict and Violence in Postcolonial South and Southeast Asia: A Comparative, Interdisciplinary Study (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIMOJO HISASHI
2. 発表標題 Belonging and Religion in the Multi-Ethnic Society of Vietnam's Mekong Delta Cross-Border Migration by Khmer Theravada Buddhist Monks
3. 学会等名 at the workshop, "Renarrating the Past: Conflict and Negotiation of Narratives along the Borders of India, Vietnam, and Japan," Center for Japanese Studies University of California, Berkeley (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIMOJO HISASHI
2. 発表標題 Mekong Delta as a Wet Zomia," at the panel "Locating Zomias Wet and Dry: Stateless Spaces in Maritime and Mainland Southeast Asia
3. 学会等名 organized by Noboru Ishikawa, European Association for Southeast Asian Studies 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIMOJO HISASHI
2. 発表標題 Belonging and Religion in the Multi-Ethnic Society in Vietnam's Mekong Delta Cross-Border Migration by Khmer Theravada Buddhist Monks
3. 学会等名 the panel "Hybridity in Culture Viewed from the Peripheries in Vietnam," organized by Satohiro Serizawa, the International Convention of Asian Scholars (ICAS) 11 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIMOJO HISASHI
2. 発表標題 Belonging and Religion in the Multi-Ethnic Society in Vietnam's Mekong Delta Cross-Border Migration by Khmer Theravada Buddhist Monks
3. 学会等名 科研基盤研究A「民主主義体制における少数派排除のグローバル化 アジア・アフリカの比較研究」論文報告会、代表：中溝和弥
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下條尚志
2. 発表標題 マイクロヒストリーと「大きな歴史」の絡み合う場 - ベトナム南部メコンデルタ多民族社会における差異の認識
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会 分科会「インビジブルとビジブルな越境をよみとく アジア・アフリカにおけるマイクロヒストリーの視点から」、代表：王柳蘭
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nguyen Van Chinh
2. 発表標題 Contact-induced changes of [f] and [tsh] sounds in Ngai language between Northern and Southern Vietnam
3. 学会等名 the SEASIA Biennial Conference 2019, Taipei (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nguyen Van Chinh
2. 発表標題 Confucius Institute and “One Belt & One Road Initiative” : A Regional Perspective
3. 学会等名 China’s Rising Influences and Belt and Road Initiative: Its Significance, Progress and Challenges for ASEAN” . Chulalongkorn University & China Development Institute (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nguyen Van Chinh
2. 発表標題 In search of Chinatown in Hanoi
3. 学会等名 International workshop on “Neighborhood Histories” in Southeast Asia. SEASREP & Chulalongkorn University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 下條尚志
2. 発表標題 統治と生存の社会史 脱植民地化以降のベトナム南部メコンデルタ多民族社会における世界観と国家
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下條尚志
2. 発表標題 ベトナム南部メコンデルタ多民族社会の民族・宗教・越境
3. 学会等名 東南アジア学会北海道・東北地区例会シンポジウム境界からみるアジア 宗教の中心と周縁
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小田なら
2. 発表標題 南北分断期のベトナムにおける「伝統医学」と科学への信頼
3. 学会等名 東南アジア学会第99回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ODA NARA
2. 発表標題 Vietnamese Traditional Medicine (1954-1975): The Decolonization Process and The Cold War
3. 学会等名 First Joint Meeting of the Asian Society of the History of Medicine (ASHM) and History of Medicine in Southeast Asia (HOMSEA) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小田なら
2. 発表標題 冷戦下の南北ベトナムにおける伝統医学の再編制
3. 学会等名 身体・環境史研究会2018年度第4回（同志社大学人文科学研究所共同研究会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ODA NARA
2. 発表標題 What makes Vietnamese traditional medicine original? : The modern history of traditional medicine in South Vietnam
3. 学会等名 International Conference on Traditional Medicine, Phytochemistry and Medicinal Plants (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shimojo, Hisashi
2. 発表標題 Local Politics in National Border-Crossing between Southern Vietnam and Cambodia: Mobility in the Mekong Delta after the Cold War
3. 学会等名 The Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (SEASIA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shimojo, Hisashi
2. 発表標題 Migration as Survival Strategy in a Multi-Ethnic Village of the Mekong Delta since 1975
3. 学会等名 Vietnam Update (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小田なら
2. 発表標題 北ベトナム（1954～1975）の医療制度整備における「ベトナム伝統医学」の創出
3. 学会等名 東南アジア学会関東例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤正子
2. 発表標題 「わたしたちは華人ではない」 - ベトナムの華僑政策と北部農村に住むガイ人の現代史
3. 学会等名 東南アジア学会関西例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤正子
2. 発表標題 20世紀以降の中越国境 - ベトナム東北山間部ランソン省のタイー・ヌンと中国
3. 学会等名 ゾミア研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤正子
2. 発表標題 多民族国家ベトナムと少数民族語政策
3. 学会等名 2016年度公開講座「東南アジアの多民族・多言語社会 - ベトナム・シンガポール・インドネシア」慶応大学言語文化研究所
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 伊藤正子
2. 発表標題 戦争の記憶と和解：韓国軍による戦時虐殺問題
3. 学会等名 『2016年ベトナム全土解放記念講演』日越友好協会大阪府連合会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 下條尚志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学出版会	5. 総ページ数 445
3. 書名 国家の「余白」 メコンデルタ 生き残りの社会史	

1. 著者名 Nguyen Van Chinh	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Chulalongkorn ASEAN Center	5. 総ページ数 185-207
3. 書名 Chapter 8 in "China's Rise in the Mainland ASEAN"	

1. 著者名 Nguyen Van Chinh	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 257-276
3. 書名 "The Rise and Revitalisation of ethnic Chinese Business in Vietnam" in Chinese Capitalism in Southeast Asia: Cultures and Practices	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	下條 尚志 (SHIMOJO HISASHI) (50762267)	静岡県立大学・国際関係学研究科・助教 (23803)	
研究分担者	小田 なら (ODA NARA) (70782655)	千葉大学・大学院社会科学研究院・特任研究員 (12501)	
研究協力者	グエン ヴァン・チン (Nguyen Van Chinh)	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学・文化人類学部・准教授	
研究協力者	鄧 応文 (Dang Ying wen)	暨南大学・東南アジア研究所・副教授	